

優秀賞

住宅の部

建築主：山崎博史

設計：株式会社須藤剛建築設計事務所

施工：株式会社佐久間工務店

所在地：流山市

～全てを緩やかに繋ぐ余白としての中廊下のある家～

おおたかの森の住宅



北側外観

敷地は流山市に1970年代に開発された住宅地にあり、そこには庭付専用住宅(地上2階)が建っていた。この「おおたかの森の住宅」は建築主ご夫婦と子供のための住まいで、リモートワーク用の書斎と家で過ごすことが多いことから、一日中快適に過ごせる住宅を求められていた。

計画のキーとなるのが建物中央南北に通る中廊下である。幅は室としてはやや狭い約2.2m、天井高は約6mで上部壁はガラス張りである。廊下は各室同士の音やプライベートと仕事を緩やかに仕切る役割を成す一方、各室を繋ぐ移動の空間、諸室の延長として庭やホールのように多様に使うことができる空間で、視線が空に抜ける開放感や外部環境を感じるための余白であり、心地良い空間となっている。

書斎は玄関脇に配置し靴に履きかえて出かけることで、仕事への切替えができる。玄関の地窓は道路からの視線は遮りながら、外を行き交う人を垣間見ることができるのが面白

い。また、家具や建具などの木内装材をラワンで統一したことが、色味も併せて落ち着いた空間づくりに貢献していると感じた。ラワンの表面処理も丁寧で素朴な柔らかい仕上がりになっているのが印象に残った。

当初設計者は、2階建の計画もスタディしたとのことだったが、敷地に余裕があり平屋としたことで、平面移動の気軽さと中廊下の余白が生まれ、快適に家族が過ごせる空間を生み出すことに成功した。

将来、家と共に家族が年を重ねていって、子供が巣立った後もこの住宅であれば大がかりな改修をすることなく、快適に過ごしていけるのではないだろうか。(藤本 香)



多様な使い方を想定した廊下



LDKから廊下と庭そして公園へ続く

(撮影全て:新建築社 写真部)